

日本における「かわいい」の感性

Sensitivity to 'Kawaii' in Japan.

黎 静如
Seijo Rei

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 言語文化学専攻 博士後期課程

キーワード：かわいい, 感性, 比較文化
Key words : Kawaii, Sensitivity, Cross-cultural

1. 研究目的

本研究は、「日本における「かわいい」の感性」をテーマとする。日本において、「かわいい」という概念を取り上げた先行研究著書としては、増淵宗一『かわいい症候群』日本放送出版協会(1994)、四方田犬彦『「かわいい」論』筑摩書房(2006)、櫻井孝昌『世界カワイイ革命』PHP 研究所(2009)、古賀令子『「かわいい」の帝国』青土社(2012)などが挙げられる。これらは、「かわいい」の言語的定義、使用の状況、異文化への影響等が考察されている。論文では、石田かおり「日本のカワイイ文化の特質・来歴とその国際的発信について」『駒沢女子大学研究紀要』第19号(2012)は、「かわいい」という概念を身体論的美意識の視点からアプローチしている。會澤まりえ 大野実 ジラード ダレン ジラード美佳子「アメリカにおけるクールジャパン現象」『尚絅学院大学紀要』(2010)は、異文化コミュニケーションの観点から、「かわいい」を「クールジャパン」現象としている。

また、中国において、彭黎黎「试论“可爱”一词的变容——以书写·意义和使用方法为中心」『Cnki 中国知网』第3期(2017)は、日本における「かわいい」という言葉の変遷と使い方について分析している。

さらに、欧米圏において、Manami Okazaki Geoff Johnson『Kawaii: Japan's Culture of Cute』(2013)、Christine R. Yano『Pink Globalization: Hello Kitty's Trek Across the Pacific Paperback - Illustrated』(2013)は、原宿系のファッションやメイク、サンリオのキャラクターなどのビジネス化された表象を個性的な認識として取り上げている。

2. 研究実施内容

申請者は、2022年6月に博士論文題目を「宮崎駿論」に変更し、日本のアニメの研究を進めているが、本研究「日本における「かわいい」の感性」をベースにしていることに変わりはない。なぜなら、日本及び海外の研究者の先行文献の中で、「かわいい」文化は日本独特の文化表現と捉える研究が多く、その点から、日本のアニメの研究にシフトしていくのは高い関連性を有する。日本のアニメ(漫画なども含め)では、「丸くて幼い」など、ファンタジーの世界ならではの「かわいい」の感性が見出せる。

そのような日本のアニメは、世界でも非常にファンが多く、近年では従来の「通俗文化」の枠から脱する傾向が見え、さらには博物館や美術館などでも展示されており、将来は「ファインアート」と並べるような芸術になる、言い換えれば、「古典」になれる要素が潜んでいると思う。

このように、日本文化を研究するには、日本の「かわいい」の感性に対する研究を深めることが重要である。また、「かわいい」文化がなぜ海外に受容されたのかを探究すれば、アニメの本質に近づけることも、本研究を通して理解できた。

3. まとめと今後の課題

「日本における「かわいい」の感性」というテーマを、通時的に資料を搜集しつつ、考察した結果、「かわいい」という感性は、日本独特の文化だとわかった。また、「かわいい」文化の分析は、日本文化を深く理解するための有効的な手段だと言えるだろう。

サブカルチャーである「アニメーション文化」にも、こういった「かわいい」文化の元素が満ちている。

今後は、「宮崎駿論」という研究テーマを、本研究の成果を活かしつつ、進めていきたいと考える。

4. この助成による発表論文等

①雑誌論文

松村茂樹 黎静如 他 5 名 シンポジウム「近代アジア太平洋文化の諸相」報告 『人間生活文化研究』 査読無し（投稿済み）

②学会発表

松村茂樹 黎静如 他 5 名 シンポジウム 「近現代アジア太平洋文化の諸相」2022.11.28. 大妻女子大学にて、「宮崎駿の中国での SNS の評価から考える—宮崎駿という人物と彼の作品に纏わる異文化受容—」を発表した

付記

本研究は大妻女子大学人間生活文化研究所の令和4年度研究助成（課題番号 DA2208）「日本における「かわいい」の感性」を受けたものです。